

# 防災・減災の輪

かがわ自主ぼう連絡協議会  
会報 第129号(2017. 12. 1)  
事務局 川西地区自主防災会

宇多津町自治会連合会防災訓練の現場レポートと谷川俊博町長に「防災施策」や「まちづくり」などについてお聞きしました。

かがわ自主ぼう連絡協議会 理事  
宇多津町自主防災リーダー 平野 文夫

## 1. 宇多津町自治会連合会南部地区防災訓練

11月12日(日)に宇多津町南部地区の自治会員等老若男女約200名と、谷川町長はじめ柴村議長、町会議員の皆様が参加して、指定緊急避難場所兼避難所に指定されている町立宇多津小学校で防災訓練を実施しました。

訓練にあたっては、日本赤十字社香川県支部、香川県防災士会坂出宇多津支部、丸亀市川西地区自主防災会、陸上自衛隊善通寺駐屯地第15普通科連隊、宇多津町社会福祉協議会、地元婦人会など多くの団体にご支援をいただきました。また、訓練共催として、宇多津町住民生活課、危機管理課の皆様にもご協力いただきました。

### ◆今津福人 宇多津町自治会連合会会長挨拶

近年高齢化が進み隣近所とお付き合いをすることも少なく、大変希薄となり、絆の大切さが失われつつあります。

防災訓練は、備えを強化することを目的に実施しておりますが、加えて絆の大切さを理解いただき、地域の支えあい、助け合いのある災害に強い街、「安心で安全な街うたづ」を一緒に創りましょう。



### ◆訓練模様

#### ①「初期消火訓練」(指導:丸亀市川西地区自主防災会)



・大きな声で「火事だー、119番へ電話してー」と皆さん真剣に取り組んでいました。

②「毛布担架等搬送訓練」(指導:香川県防災士会坂出宇多津支部)



・支えあい、助け合いで一段と絆が深まり、共助の心が芽生えていました。

③「AED蘇生訓練」(指導:日本赤十字社香川県支部)



・普段の生活でも起こり得ることなので、老若男女、真剣そのものでした。それにしても、心臓マッサージは大変きついことを認識されていました。

④「段ボール、レジ袋などを利用した応急手当訓練」

(指導:丸亀市川西地区自主防災会)



・家庭用品が応急手当に活用できる、皆さんびっくりするとともに感心しながら納得して実践に取り組んでいました。

⑤「車いすの取り扱い訓練」(指導: 宇多津町社会福祉協議会)



・災害時の段差や瓦礫を想定した訓練でした。

⑥「地震体験車」(指導: 宇多津町危機管理課)



・震度5強と震度7の体験、違いに驚愕していました。

⑦「炊き出し訓練」協力: 陸上自衛隊善通寺駐屯地第15普通科連隊、宇多津町婦人会



・自衛隊カレー(中辛)の試食、美味しくいただきました。

## 2. 谷川俊博 宇多津町長に防災関連事業やまちづくりのPRとして、「うたづの町家とおひなさん」、「古街の家」、「入浜式の塩」についてお聞きしました。



### ① 宇多津町の防災対策事業

平成25年3月に公表された、南海トラフ地震における宇多津町の被害想定は、最大クラスの地震で、震度6強、最高津波水位が2.9mとなっており、それまでの想定を大きく上回るものでした。

宇多津町では、東日本大震災の甚大な被害を教訓として地震・津波への対策を実施しているところです。

### ○海拔表示板について

平成23年度及び26年度に町内に合計60箇所設置しました。最高津波水位と比較し、相対的に高い場所、また低い場所を認識していただき、避難行動の目安になればと思っております。また、日頃から表示板を目にすることで、防災意識の向上に繋がることを期待しています。

### ○津波避難ビルの指定

平成24年に、町内新都市地区の民間2施設と津波避難ビルに関する協定を締結しました。津波災害時は高台に避難することを基本としていますが、避難のいとまがない方などの避難場所の確保をしています。

### ○総合防災ハザードマップの作成

すでに作成していた、「洪水」、「土砂災害」、「高潮」、「津波」ハザードマップを一冊の冊子に統合した、総合防災ハザードマップを平成27年度に作成しました。

冊子には被害想定だけではなく、各種災害の基礎知識や町内の避難所、病院などの情報を掲載し、より見やすい・分かりやすいハザードマップとすることを目標に作成しました。日頃から目につく場所に保管していただき、避難行動の一助になることを期待しています。

### ○ハード整備について

地震対策のハード整備として、公共施設の耐震工事を実施しています。平成29年5月に本庁舎の耐震工事が完了し、また庁舎西館が完成しました。小中学校、幼稚園、保育所の耐震工事もすでに完了し耐震化率100%となっています。

また、防災機能をもつ公園として、万葉公園、さくらの広場を整備しました。飲料水兼用耐震性貯水槽や耐震性貯水槽、災害用トイレの整備やかまどベンチなどの機能を整備しました。また、飲料水兼用耐震性貯水槽は平山コミュニティ会館にも設置しております。

今年度には県と協同して、町内の指定避難所すべてに水、食料等の物資を備蓄することとしております。また、町業務継続計画、いわゆるBCPを作成しており、災害時における町の業務を滞りなく進めていくための計画を作成しています。

### 3. 自主防災組織の活動及び町の支援策

自主防災リーダーは防災会長を補佐し、防災活動のリーダーとして有事の時は率先して活動される立場の人であります。

11月1日現在、自主防災リーダーは総員101名で内訳といたしましては、男性81名、女性20名です。活動状況等につきましては、恒例の8月の防災講演会と11月の防災研修会に加え宇多津町総合防災訓練に参加しています。また、香川県主催の防災リーダー研修会にも参加しております。

それとは別に各自主防災会で実施いたしています地区の防災訓練では中心的立場で訓練の指導を積極的に実施し活動いたしています。

#### ① 自主防災組織等への助成事業について

防災体制の確立と防災思想の普及、啓発を図ることを目的に、平成24年4月1日から施行しています自主防災組織防災資機材整備事業補助金交付要綱がありまして、自主防災組織を結成すれば自主防災会が負担した額の2分の1を1年度2回、25万円までを補助しています。以前は1年度1回としていましたが利便性を考慮し、2回にいたしました。

補助対象防災資機材は、情報伝達用具・救助用具・避難用具・給食給水用具・その他の用具であります。防災に関するものであれば広範囲に認め、臨機応変に対応しています。

また、防災ラジオにつきましては現在約1300世帯に設置しており町からの緊急情報をいち早く放送いたしています。

平成28年度は、初期消火用具である家庭用消火器の一括購入事業を実施し、各自主防災会から購入予約が約500本あり、一括購入し配布いたしたところがございます。購入のメリットは、大量購入により1本当りの価格が低く抑えられ、また使用期限の10年後の管理が容易になるという点と経年劣化している古い消火器の廃棄処分することにより安全性が担保できるという点です。当然ですが、前述の補助金制度を利用すれば、半額で購入可能です。

補助金助成事業の活用状況であります。本制度施行以来平均15～20件程度で推移していますが、毎年最終的に当初予算で対応出来ず補正で対応している状況であり、各防災会においては災害に対する準備が着実に出来ているものと考えています。

この制度とは別に、地域防災の担い手の育成を促進し、地域の防災力の向上に寄与することを目的に「防災士育成事業補助金交付制度」があります。補助金制度を利用して各自主防災組織で活躍している防災士もいます。

本年度も補助金制度を活用し、香川大学防災士養成講座を受講している方もいらっしゃいます。

## ② 自主防災組織数について

平成29年11月1日現在、自主防災組織は52組織あります。うち7組織は分譲マンションです。塩田を造成し新しくできた町、いわゆる「新都市」には分譲マンションが現在24棟あり、その組織率は約30%とまだまだであります。結成率100%をめざし参りたいと思っています。その為にマンションの防火管理者と協力体制を取りながら消防総合訓練指導を実施しています。

組織率については年々上昇し、自治会に加入している自主防災組織率はほぼ100%であります。高層建築物と言われる10階建て以上の建築物は、長周期地震動の南海トラフ地震が発生すれば、高層建築物に多大な影響があるといわれていることから、これからは分譲マンションに対し自主防災組織結成率向上に向け、鋭意努力して参ります。

## ③ 自治会連合会主催の防災訓練の関わりについて

以前は、全町民に呼びかけて一括で訓練を実施いたしておりましたが、参加人員が1000人を超え訓練を体験できない人が多数発生した為に参加者全員が各種訓練に参加し体験できるようにと平成27年度から学校区単位(3校区)で実施しています。本年度が最終の校区になり次年度から最初の校区にて実施します。今までの訓練内容を見直し、町民のさらなる防災力アップのための訓練をいたします。

行政主導ではなく、自治会連合会が主催することにより各自治会(自主防災会)から自治会長の呼びかけで大勢の町民が参加するというメリットもあります。

訓練メニューにつきましても、災害時に役に立つ訓練に特化して「心肺蘇生法・AED取扱訓練」「毛布担架等搬送訓練」「応急手当」「消火訓練」「車椅子等取扱い訓練」「地震体験車」「炊き出し訓練」です。

また、陸上自衛隊の炊事車による炊き出し訓練や高松気象台の液状化実験装置などの防災機器等の展示も併せて実施いたしています。

当然ながら町役場としても防災訓練を全面的にバックアップしていますが、あくまで有事には「自助」と「共助」が大切なので日頃から訓練の主導は自治会連合会を中心に町民が訓練に積極的に参加しています。ありがたいことです。

## 4. 宇多津町のまちづくりに関するPR

### 【うたづの町家とおひなさん】



日時：平成30年3月3日(土)、4日(日) 9時～17時(日曜のみ16時まで)

風情ある町並み・町家をお雛様とともにお披露目をします。住民主体で町をあげて行う行事は約90軒がそれぞれのお宅でお雛様を展示し、お披露目とお茶等のご接待を行っています。15回目を迎える次回開催では、スタンプラリー等の記念行事や宇多津町でかつてあった婚礼の風習を再現した、まちぐるみで祝う婚礼のお披露目「うたづの嫁入り福あるき」等様々な企画が計画されています。

### 【古街の家】



町を東西に走る県道33号線の南側に広がる「古街」には、歴史を感じさせる寺社や町家が多数残っています。そんな古街の中心にあるのが、「古街の家」。明治元年と昭和五年建築の古民家を改修した一棟貸し切りの宿泊施設で、徳島の祖谷などで古民家再生を手掛けた東洋文化研究家、アレックス・カーが監修したことで話題になりました。当時の梁(はり)や欄間などは残しつつ、ヒノキ風呂やオール電化のキッチンを完備するなど、快適さにもこだわった造りが特徴です。古街には一社九カ寺が残るほか、今も現役の赤い丸型の郵便ポストや老舗の餅屋、駄菓子屋なども点在。まるでタイムスリップしたような不思議な感覚に浸ってみては。

### 【入浜式の塩】



宇多津町の特産品に「入浜式の塩」があります。かつて宇多津町の海岸線は塩田で埋め尽くされ、日本一の生産量を誇る塩の町と名を馳せました。この入浜式復元塩田は、その歴史と伝統を未来に伝えるべく、町が1988年に整備しまして今年で30年目となります。現在では4名の職人が、江戸時代から昭和30年頃まで主流だった製法で日々塩作りを行っており、まさに手塩にかけて作られたその味は、一般的な塩に比べてまろやかで甘みがあるのが特徴です。昨年は1,595キロの塩と880リットルのにがりを作り、そして303の方に入浜式の塩作りを体験していただきました。多くの方に美味しい塩をお届けできるよう、伝統をつないでいけるよう取り組んでいます。

以上

今月もシェイクアウトプラスワン訓練の実施状況と月尾嘉男自然塾全国大会の概要をお知らせします。

尚プラスワン訓練は県内 13 施設で実施しましたが、誌面の都合により 2 施設の紹介となりました。あしからずご了承下さい。

## 1. せとうち福祉サービス様におけるプラスワン訓練

近くに流れている高瀬川のはんらんを想定。市役所からの避難準備情報を合図に岡田訓練実施本部長の指示のもと、各部署の避難誘導班のテキパキとした作業指示によって、あらかじめ指定している本部建物の 2F へと避難行動を行いました。

①県道 220 号線を横断しての避難は、地元警察署の支援を得て一般車輛を規制しての本格的な避難行動となりました。

②避難施設（本館）での上層階への避難移動  
エレベータ使用不能による避難行動のため、  
(ア) 車イスごと持上げての避難

4 人搬送が基本ですが、更なる安全性のため、プラス 1 人が後方から支えると、車イス利用者に安心感を与える結果となりました。

(イ) 毛布によって、上層階へ搬送

6 人でしっかりとバランス（力関係）よく実施すると、車イスより安定感があったと感じました。

ただし、毛布の素材を見極める必要があります。安価でかつ生地がシャッキリとしたものを選んでほしいと思います。





### ③ふりかえりミーティングとあめ湯の提供

全ての避難行動が終了した時点で本館 2F において、実施本部長からの総評あいさつと岩崎より今後に向けての取組み等についてお話しをさせていただきました。

その後、参加者全員に「アメ湯」を飲んでいただきましたが、好評でおかわりの人が多く、訓練後のさわやかな雰囲気がかもしだされ効果てきめんでした。

尚この「アメ湯」はマキ燃料で作りました。

## 2. シェイクアウトプラスワン最後の訓練、高松市木太町法寿苑様

午後 4 時、南海トラフによる地震発生。その後、津波が瀬戸内海に流れ込み、詰田川に津波が押し寄せ、木太町エリアに浸水が始まるという想定訓練。

- ① 午後 5 時すぎから特別養護老人ホーム「法寿苑」の周辺地域住民の皆様が一旦、地域の氏神えびす神社に集合して、その後、地域連携施設の法寿苑（3F 建構造）へ向かって避難。午後 5 時 45 分ごろ、全員が法寿苑の 3F 大広間に集合。自治会長はじめ役員によって避難確認点呼を行った。

- ② 午後 6 時より、訓練実施本部長である山口施設長殿より、ごあいさつと本日の訓練スケジュールの説明、その後、法寿苑の研修リーダーより、車イス利用者の階段における上下動の避難に対する実技指導と参加者を 4 グループに分けての体験訓練を実施。



- ③ 実際に階段を使っの施設担当者による避難訓練の実施状況を 2 グループに別れて見学研修の実施。

- ④ 最後に 1F ロビーにて、閉会行事、香川県危機管理課稲田副主幹並びに木太地区自主防災会榎会長よりごあいさつ。

- ⑤ 参加者全員、玄関先ピロティにて、たきだし食の体験として、マキ燃料で作った「豚汁」をいただき、次回の訓練実施につないだ。



## 3. 第 19 回月尾嘉男自然塾全国大会に参加

本年度の大会は「鯨とともに生きる」和歌山県大地町にて、古座川溪流塾主催で 11 月 17 日（金）～11 月 19 日（日）まで開催された。

・初日（11月17日）前夜祭（白鯨館）

皆さん1年ぶりの再会。各地から持ち寄った日本酒を飲みながらそれぞれの近況話しながらの楽しいひととき。2年前ダンナさんを亡くしていたO女史も新たな彼と一緒に参加。皆さん元気になっていた彼女に拍手かっさいの夜でした。



・2日目（11月18日）視察と全国大会

午前7時参加者全員朝食。午前8時白鯨館を出発。那智の滝、熊野那智大社、那智山青岸渡寺を雨降る中、視察参拝。その後、古座川に沿って、奇岩ともいえる虫くい石の数々を見て回った後、2700万年前に出来た高さ約130M、横400Mの「一枚岩」の前において、この一枚岩誕生などについて地元ボランティアガイドより説明を受けた。



昼食は「いろり宿」において、鹿やイノシシを食材に使ったこおりに入った弁当であった。全国大会は15時より、大地町の公民館にて開催。地元の名士や地域の活動家など150人が加わり、約200名出席、熱気いっぱいの会場。月尾塾長から「幸福社会への巨大転換」というテーマでもって約1時間30分講演。その後、「観光と地域連携」というテーマでパネルディスカッション。会場の人達を巻き込んだとても実のある内容となって、予定時間を約40分オーバーして午後6時40分に終了。19:00から白鯨館において、地域の人達も交えた交流会。



多くの鯨料理を食べながら1年後の再会を期することで21時30分に終了。尚第20回大会は北海道釧路にて開催することが確定。

・3日目（11月19日）、私はスケジュールの関係で皆さんより早く白鯨館を出発し、午前7時28分大地駅を出発一路大阪経由讃岐路へと急いだ。しばらく美しい南紀の海岸を見ながらの電車の旅、我が讃岐のおだやかな地形と男性的で荒々しい南紀、外国人の移住も含め、若い人の移住が増えていますと、大地町役場の人が言っておりましたが、魅力がいっぱい、我が讃岐は美しい瀬戸内海で勝負するしかないのか…と思った旅路でありました。

以上

## 編集後記

今月の防災減災の輪は、宇多津町自主防災リーダー平野様の原稿を掲載させていただきました。ありがとうございました。